

令和 6 年度

特別養護老人ホーム蓬仙園 蓬仙園短期入所生活介護事業所
ほうせんえん居宅介護支援事業所

事業報告

【基本理念に基づく行動指針】・・・ P. 1～13

行動指針を5つ掲げ、施設と職員が向かうべき方向と考え方を示すことができた。

全職員が具体的に取り組む行動計画

1) 安定した経営の確保・・・ P. 14～16

入居稼働率の向上を目標として各事業所共に切磋琢磨してきた。令和6年度の稼働率の目標に達成している事業所は、居宅介護支援事業所のみで他の事業所は目標に上げた稼働率には達していない。原因として長期入居に関しては、長期入院者によるベッドの空きの問題。短期入所に関しては、定期利用者やロングSSが退所になった時に新たな利用者の確保ができなかった。来年度は施設の魅力を発信しながらより一層、新規入居者の獲得に努め、稼働率の向上を施設一丸となって取り組んでいく。

2) 人材の育成・・・ P. 17～20

- ・職場内研修では、外部の講師を招き蔵王長寿園と研修を共に行った。
- ・施設外研修については、オンライン研修により、昨年度より参加者が増えた。
- ・今年度の資格取得：介護福祉士、社会福祉士、ユニットリーダー、喀痰吸引実地研修、認定特定行為業務従事者認定（口腔内の喀痰吸引）
- ・新規採用職員教育を8名実施した。
- ・職員研究発表会を開催した。

《4月18日開催 第27回職員研究発表会》

1	スチームコンベクションオープンの使用状況について	栄養調理部門
2	新たな活動を通して、夜間の良眠に繋げる	生活介護部門
3	機能訓練、栄養、口腔の一体的取り組み	生活福祉部門
4	数字で見た蓬仙園	事務部門

令和7年3月31日現在

社会福祉士	4名	介護福祉士	53名	介護支援専門員	9名
看護師	4名	准看護師	6名	管理栄養士	1名
栄養士	2名	調理師	7名	衛生管理者	1名
歯科衛生士	1名	理学療法士	1名	鍼灸マッサージ師	1名
認定特定行為業務従事者認定	37名	ユニット施設管理者研修	1名	ユニットリーダー研修	7名
認知症介護実践リーダー研修	3名	主任介護支援専門員	3名	防火管理者	3名
認知症チームケア推進研修	2名	安全対策担当者研修	3名		

3) 働きやすい職場づくり

- ・介護支援ロボット（眠リスキャン等）を活用し、職員が手薄な時間帯に精神的な負担軽減となった。
- ・移動用具を使用する事により、職員の腰痛対策として移乗介助ができた。
- ・年2回定期健康診断実施し、定期健康診断の結果に異常の所見がある場合には、再検査を受診し、その結果を衛生管理者に報告した。
- ・メンタルヘルス対策として、職員のストレス診断調査を山形市医師会センターへ委託し実施した。
- ・衛生委員会たよりの「すこやか」を年3回発行した。
(第1回：からだの健康はお口の健口から 第2回：良質な睡眠がとれていますか 第3回：腸活してみませんか)
- ・全職員対象に、仕事上での悩みや考えていることを上司が聞き取る個人面談を行った。

4) 選ばれる施設への取り組み・・・P. 21

- ・「蓬仙園だより」を2回発行した。(8月1日 101号 1月8日 102号)
- ・「要覧」を発行し、公共機関・医療機関・薬局等へ直接訪問し設置した。
- ・「ホームページ」を随時更新した。
- ・上山市委託事業「介護者教室」を蓬仙園内の地域交流ホールにて3月に開催した。
「高齢者ふれあい事業」は、希望があった地区（四ツ谷、旭町、久保手）の公民館で行った。
- ・キャリアスタートウィークに北中2年生4名来園
- ・上山市主催の「すこやか運動教室」の移動支援に協力した。
- ・中川地区の行事（蔵王山清掃、運動会、中川福祉村産業まつり）に出席した。
- ・第50回衆議院議員選挙 入居者：18名 山形県知事選挙 入居者：17名 不在者投票を行った。
- ・苦情解決委員会（偶数月開催）開催し、第三者委員から毎回「苦情はない」との報告を受けた

5) 感染症対策の強化

- ・ 感染対策版の事業継続計画（BCP）に基づき、全職員を対象とした研修と見直しを行った。
- ・ 感染対策を取りながら居室での面会と希望されるご家族へ自宅への外出を実施した。
- ・ 衛生管理者と衛生委員による定期職場環境巡視を実施した。
(5月～10月は月1回、11月～4月の冬期間は週1回)
- ・ インフルエンザ予防接種を全職員行い、入居者はインフルエンザ及び新型コロナウイルスを希望者のみ施行した。
- ・ 必要時、衛生委員会と感染症対策委員会と合同で感染症対策に取り組んだ。
- ・ 全職員対象に、感染状況や対策についてメールで周知した。
- ・ 山形県内の感染症の動向を掲示板に掲示をし、注意を促した。
- ・ 2月に浴槽のレジオネラ菌の検査を実施した。

6) 非常災害対策の強化・・・P. 22

- ・ 自然災害版の事業継続計画（BCP）に基づき、全職員を対象とした研修と見直しを行った。
- ・ 避難訓練、消火器使用訓練、発電機使用訓練を年間計画通り実施した。火災報知機に関する使用方法は関係する職員に周知できた。
- ・ 栄養調理部門が中心となり、非常食炊き出し訓練を行い、実際に昼食時に入居者へ提供した。
- ・ 南村山地区災害協定の取り組みにて、備蓄調達訓練（通報訓練）に参加した。

7) 看取り介護の実施

- ・ 今年度は27名の退居者のうち18名の方を施設で看取った。その内2名の方のご家族には、最期の時間を付き添って頂くことができた。
- ・ 本人が食べたい物の声を拾い、ご家族から持参して頂き職員が対応したり、直接ご家族がご馳走したり対応できた。
- ・ 「看取りに関する指針」に沿って、多職種で看取り介護に向けたカンファレンスを行うなど家族、職員協力で悔いのない支援を行った。
- ・ 看取り後に、次に繋げる情報を多職種間で共有した。

8) 認知症への対応力向上

- ・ 介護職員を中心に、委員会を構成し専門的な視点で適切な介護に取り組んだ。
- ・ 認知症について、「K様の対応について」と題して内部研修を行った。
- ・ 認知症の研修を受けていない職員は、「認知症基礎研修」を受講した。(4名受講)

9) 高齢者虐待防止の推進

- ・ 職員会議及び各ユニット会議開催時、「不適切ケアについて」話し合いを行い、ケアの確認を行った。
- ・ 2か月に1回委員会を開催し、現在行っている介護が虐待等に当たらないかの確認を

行った。

- ・全職員を対象とした研修を行った。

題目：第1回「介護のプロ意識とモチベーションアップ」

第2回「高齢者虐待防止に関する事例研修」

10) 身体拘束防止等の適正化

- ・身体拘束ゼロに取り組み、拘束しない介護を長年継続してきているが、全職員もこれからも身体拘束に繋がらない様に意識して介護を行った。
- ・2か月に1回委員会を開催し、現在行っている介護が身体的拘束等に当たらないかの確認を行った。
- ・全職員を対象とした研修を行った。

題目：第1回「認知症の理解と適切なケア」

第2回「身体拘束について」

11) 安全の徹底・・・P. 23～26

- ・毎月のユニット会議において、ひやり・はっと、事故に対しての検討を行った。離床検知装置を使用し、安全に過ごしていただける環境整備等について検討を行なった。
- ・事故報告 221 件、ひやり・はっと報告 135 件、計 356 件
- ・事故内容に関して、薬（誤薬）8 件（落薬）53 件 表皮剥離は 14 件
転倒・しりもちは 40 件
- ・発生時間帯に関して、夕食から朝食まで 151 件、朝食から昼食まで 114 件、
昼食から夕食まで 102 件
- ・場所に関して、167 件は居室で発生 112 件はリビングで発生
- ・結果として、骨折 4 件、創傷 24 件、打撲 8 件
- ・骨折の内訳 ①右大腿骨頸部骨折 ②右大腿骨転子部骨折 ③骨盤骨折 ④恥骨及び坐骨骨折

令和6年度の反省と7年度に向けて

6年度は、介護報酬改定により委員会の立ち上げや多くの研修や訓練等に全職員が取り組んだ。今後も必要な研修や訓練等を、より多くの職員参加ができるように企画していきたい。

安全の徹底については、「ほう・れん・そう」を頭に置き、日々の業務に取り組んでいるが、職員間での情報の共有不足が時折みられた。7年度は職員間での情報共有をしっかりと行い、事故を未然に防いでいく。万が一事故が起きた場合であっても、ご家族への速やかな報告と謝罪の対応を行っていきたい。

I 特別養護老人ホーム蓬仙園

【生活介護部門】

1) 個別ケアの実践及び生活維持の為の継続的な介護支援

- ・令和6年度より、必要な入居者に24時間シートを作成した。令和7年度も引き続き入居者の日常生活に反映し、活用できるように取り組んでいく。
- ・各ユニットで目標を掲げ取り組んできたが、目標に達成できない部分もあった。次年度は掲げた目標を全て達成できるように実施していく。

【各ユニット目標の反省】

《翔》

- ・レクリエーションや誕生会等毎月開催することができなかった。入居者への聞き取りなどから個々のニーズを汲み取り、レクリエーション行事や装飾制作等の年間計画を作成し、計画的に楽しみを提供していく。
- ・朝顔のグリーンカーテンが入居者に好評だった。草花等の自然を取り入れた生活環境を継続していく。

《響》

- ・担当がメッセージカードを作成し、誕生日当日にお祝いをすることができた。
- ・入居者の意向に合わせた季節に合わせたイベントを企画し実行できた。
- ・暖かい日には、園周囲への散歩へ出かけ季節を感じ取って頂いた。
- ・ユニット内で寿司屋の出前を頼んだり、魚屋の刺身を頼んだり個々の希望に沿った取り組みができた。

《和》

- ・お茶会では季節に合ったおやつを提供し、職員、入居者共に楽しむことができた。食べられない入居者には、身の回りの物をプレゼントとして渡すことができた。
- ・ユニット内で寿司屋の出前を頼んだり、魚屋の刺身を頼んだり個々の希望に沿った取り組みができた。

《風》

- ・食材を購入し手作りのおやつを入居者へ提供できた。
- ・入居者と共に装飾の制作を行い、季節に合わせた行事を行った。
- ・個々に合わせた外出行事ができなかった。来年度は、入居者個々の希望をとり計画し実行していく。

《奏》

- ・季節に合わせた行事（スイカ割、芋煮作り、おでん等）を入居者と共に楽しく行う事ができた。
- ・天気の良い日は、外に散歩に出かけ、外に行けない日は室内から外を眺めながらゆっくり過ごすことができた。
- ・入居者の意見を取り入れ、お漬物やふりかけ等個々の食べたい物を提供できた。

2) 信頼関係の構築

- ・面会時や必要時、ご家族へ現在の状態や最近の様子を伝え、コミュニケーションを図ることができた。

3) 職員の介護技術の向上

- ・「知る」「待つ」「活かす」「考える」が周知できていない時もあった。職員全員が「合言葉」を念頭に置き、統一したケアに努めていく。
- ・職員一人一人、仕事に対する目標を立て1年間それに向けてそれぞれ取り組んだ。

4) 多職種との連携の強化

- ・入居者の状態変化時に、多職種が集まりその都度カンファレンスを実施し、ケアプランに繋げる事ができた。
- ・常日頃から体調を観察し、多職種での情報共有に努め、早急に体調変化に対応した。
- ・常時オムツしている入居者に対して、機能訓練指導員と共に座位排便を促すように対応した。

5) 褥瘡予防対策

- ・毎月委員会を開催し、褥瘡ができない寝具類（枕、マット等）や紙おむつの選定等、多職種が連携して褥瘡をできないケアに努めた。
- ・入浴後、皮膚の保湿効果を高める為、保湿用のクリームを塗布し保湿に努めた。

6) アクティビティの充実

- ・「夏まつり」「ユニット対抗大運動会」「もちつき大会」等行事や活動を計画し実施できた。今後、入居者と職員と一緒に楽しく自然と笑顔が出るような企画を行っていききたい。
- ・セブンイレブン蔵王の森店の協力により、移動売店を毎月実施した。
- ・おーばん上山店の協力により、好みの食べ物や日常生活に必要なものを注文し、購入できた。
- ・山形県輪投げ大会（ZOOM）に参加した。（団戦体3名参加 山形県内11位 個人戦 3名参加し山形県内 1位と 9位入賞）

【事務部門】

1) 施設の顔として常に丁寧な対応

- ・ご家族が少しでも安心できるよう施設の顔として玄関での対応は常に丁寧である事を心掛け対応できた。

2) 経営を考える

- ・新施設に移行して、光熱費等詳細な数字が見えてきたが、全ての品が価格高騰により経営にも影響が出てきている為、予算状況を確認しながらどこが節約できるか、全職員と共に共有しながら取り組んでいく。

3) 法改正への対応

- ・労働基準法等が変更になった場合、専門家に聞くなどして、業務に反映できた。

【福祉部門】

1) 入居者やご家族のニーズに寄り添う

- ・入居者及びご家族の声を拾い上げ、より良いケアに結び付ける事ができた。
- ・みな様の声の会（施設長と入居者との懇談会） 3回 延べ48名

令和6年6月 18日	19名
令和6年6月 25日	14名
令和6年10月 30日	15名

- ・みな様の声の会の中で、「お酒が飲みたい」や「生寿司が食べたい」という話があり対応した。

2) 入居待機者の適正な実態把握を行う

- ・新規申し込みや状態に変化があった申込者について、迅速な対応ができた。

3) 家族との連携の強化

- ・4月に、入居者の担当が顔写真入りの挨拶を家族に配布した。
- ・入居者の体調や生活状況について、過不足なくご家族へ情報提供できた。家族関係等にも配慮しながら、連絡するタイミングや方法を工夫し実施した。
- ・施設や職員としての思いをご家族に伝えることはできていると思われるが、ご家族の意見や気持ちをしっかりと汲み取ることができるように、より意識して取り組んでいきたい。

4) 入居者の立場に立ったケアプランを作成する

- ・本人、ご家族より意向を確認し、入居者中心に考えたプランが作成できた。
- ・状態に変化があった場合、随時見直しを行った。
- ・今年度も感染症対策により、サービス担当者会議を職員のみで開催し、ケア計画書については郵送し同意を頂くことができた。

5) 入居者の身体機能や生活機能向上の維持を図る . . . P. 27

- ・介護部門と連携を図りながら、その時の状態に合わせた移乗、入浴、食事の指導を行ってきた。
- ・地域交流ホールを活用し、カラオケ大会や輪投げ大会等新たに企画し、行った。

6) 口腔ケアの充実

- ・歯科衛生士が、介護職員に対し具体的な技術的助言及び指導を行った。
- ・介護職員からの相談を必要に応じて行い、異常を早期に発見することができた。
- ・食事の待ち時間を利用し、歯科衛生士が中心となり口腔体操を行い、口腔内を潤すこ

とにより誤嚥予防に努めた。

- ・ 歯科医師による往診や通院によって治療ができた。
- ・ 歯科衛生士と機能訓練指導員が中心となって嚥下反射、ムセの評価確認をおこなった。

【医務部門】

1) 入居者に安全で快適な看護を提供する

- ・ 医師、多職種との連携は出来た。
- ・ 服薬管理に関しては、誤薬の事故報告が減らない。服薬マニュアルを見直し、周知していく。

2) 医療機関との連携の強化・・・P. 28

- ・ 協力病院との連携を円滑にしていくためにも、まず主治医との連携を強化していく必要がある。

3) 医療ケアが必要な入居者に、安全かつ適正な提供体制を行う

- ・ 認定特定行為業務従事者認定（口腔内の喀痰吸引）について令和6年度は2名が取得し、他にフォローアップ研修も実施した。
- ・ 安全委員会を開催し、安全かつ適正に実施されているかを確認できた。

【栄養調理部門】

1) 入居者に満足して頂ける食事を提供する・・・P. 29～32

- ・ 1日のおにぎりの日には、栄養調理職員が各ユニットに出向き、入居者の好みを聞きながら、温かいおにぎりを提供することができた。
- ・ 毎月28日のつや姫の日には、地産地消の旬の食材を取り入れ提供することができた。
- ・ 毎月食事検討会を行い、選択メニューや新メニューについて検討又は調理法等の検討を行い、より質の高い食事提供に努めた。
- ・ 嗜好調査を行い、個々のニーズに対応できるように努めた。
- ・ 「食事について」ホームページの更新も定期的にも実施した。

2) 衛生管理を遵守する

- ・ 大量調理マニュアルを遵守し、衛生管理、食中毒を徹底して行った。
- ・ 大腸菌検査（6月）を行い、衛生管理に努めた。
- ・ 年2回の害虫駆除、毎月の検便、ノロウイルス検便（12～3月）を実施した。

3) 入居者の身体状況に対応した食事を提供する

- ・ 嗜好調査を行い、個々のニーズに対応できるように努めた。

4) いつまでも口から食べて味わいのある生活を送る

- ・栄養ケア・マネジメントマニュアルに沿って、栄養ケアを実施した。
- ・毎月の体重測定、定期的な血液検査、毎日の食事と飲水の摂取状況の把握、体調変化等の観察に努めた。
- ・体調が悪い時はご本人が食べたい物、食べられる物を提供して少しでも早く回復に向かうよう対応した。

令和6年度の反省と7年度に向けて

6年度は、移転した慌ただしさが落ち着き、計画の目標を達成する為に取り組んできたが、まだまだ成果として達成できない部分も多くあった。来年度に向けて各部門共に計画を念頭に置き、達成するように日々精進していく。

常日頃から、ご家族や地域から選ばれる施設を目指し全職員一丸となって取り組んできた。7年度も引き続き、入居者及びご家族と一緒に楽しい企画を考え、実行し魅力ある蓬仙園をSNSや広報誌でPRし、法人全体の稼働率アップに繋げていく。また、高齢者ふれあい事業や地区会による施設見学等直接職員が関わる機会が増えてきたので、蓬仙園としてできる地域貢献や施設の紹介等を行い、蓬仙園の魅力を伝えていきたい。

Ⅱ 短期入所生活介護事業所

1) 利用者にとって安全で快適な居住空間の提供

- ・実態調査時に、居住空間を確認し環境整備に努めた。
- ・利用者個々の身体能力を活かしたサービスの提供ができた。
- ・担当ケアマネからの情報は、関わる全職員が共有できる事が出来た。

2) 利用者の拡大を図る

- ・自宅での介護が困難な利用者や自宅で生活が難しい単身利用者を、30日超えて長期的に利用して頂き、長期入居へ結びつける事ができた。
- ・ホームページで、各介護支援事業所への空き情報の提供を行ったが、利用者拡大とまではいかなかった。
- ・新規の申し込みがあっても、お試しや単発での利用を希望される方が多く、定期的な利用に繋がらなかった。
- ・一人暮らしの方への夕食支援は希望者に提供できた。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個数	5	4	4	5	4	3	5	4	9	7	5	4	59

3) 家族とケアマネとの連携

- ・利用中の様子や身体状況について、ご家族やケアマネへ文書又は口頭で伝える事ができた
- ・利用前に緊急時の対応をご家族と確認し対応できた。
- ・希望により、機能訓練指導員が残存機能を活用して在宅生活が継続できるよう機能訓練を実施した

○個別機能訓練加算実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	29

【令和6年度の反省と7年度に向けて】

現在の利用者は定期的に利用して頂いている方のみで、新規利用者は一度きりの利用で継続して利用に結びつく事が少なかった。パンフレット等を作成したがケアマネや家族へのPR等が足りず、利用者拡大に繋がらなかった。

令和7年度も利用者を楽しみを持って過ごして頂けるように、行事や個人に合わせたレク活動を行う事など計画している。

今できる事を再度見直し、事業所のみならず施設全体で稼働率を上げる取り組みを行っていく。

Ⅲ ほうせんえん居宅介護支援事業所

1) 利用者の状態確認の強化

・令和6年3月末で蓬仙園通所介護事業所の閉鎖に伴い、事業所を変更している利用者様に対しては、身体や精神状態等に対して確認を行い対応した。変更した事業所が合わなかった利用者もおられたが、事業所の変更等の対応を早急に行う事が出来た。

2) 新規利用者の確保

・地域包括支援センターや利用者の家族からの紹介などもあり、新規利用者が増えた。施設入所や長期入院となるケースもあったが、自宅での生活が困難となった場合に、高齢者住宅等を利用して生活するケースも多く、入居後も継続して担当するケースも多かった。

3) 介護支援専門員の知識と質の向上 . . . P.33~35

・外部の研修に積極的に参加する為、WEB研修を中心に情報収集を行い、普段参加する事が出来ないような研修に参加する事が出来た。

業務時間外の連絡相談件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	4	5	5	6	5	5	4	2	1	5	2	4

合計 48件 月平均 4回

サービス担当者会議の開催

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	5	8	4	8	6	6	8	7	13	5	2	7

合計 79回 月平均 6.5回

【令和6年度の反省と7年度に向けて】

地域包括支援センターや医療機関、介護サービス事業者等と連携を図り、利用者様やご家族様の望む生活が継続出来るように支援し、多種事業所から信頼を得る事で新規利用者を紹介して頂く事が出来るようにしていく。